

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年3月5日（木）

2 確認箇所

G4南タンクエリア（図1）

3 確認項目

- (1) 溶接型タンクの点検状況
- (2) ALPS処理水の貯蔵状況

4 確認結果の概要

(1) 溶接型タンクの点検状況

福島第一原子力発電所の構内には、多核種除去設備等処理水（ALPS処理水）等を貯蔵するため、1,000基を超える溶接型タンクが設置されている。これらのタンク耐用年数は20年と設計されており、鋼板を溶接した堅固な構造を有し、腐食を考慮した塗装が施されている。

東京電力は、これらタンクの長期的な健全性を確保するため、耐用年数を待たずに定期的な外面及び内面の点検を実施し、異常の早期発見と適切な補修に努める方針としている。

今回は、G4南タンクエリア（A群及びB群タンク）で実施されているタンクの内面点検について確認した。（前回確認：[令和7年6月11日](#)）

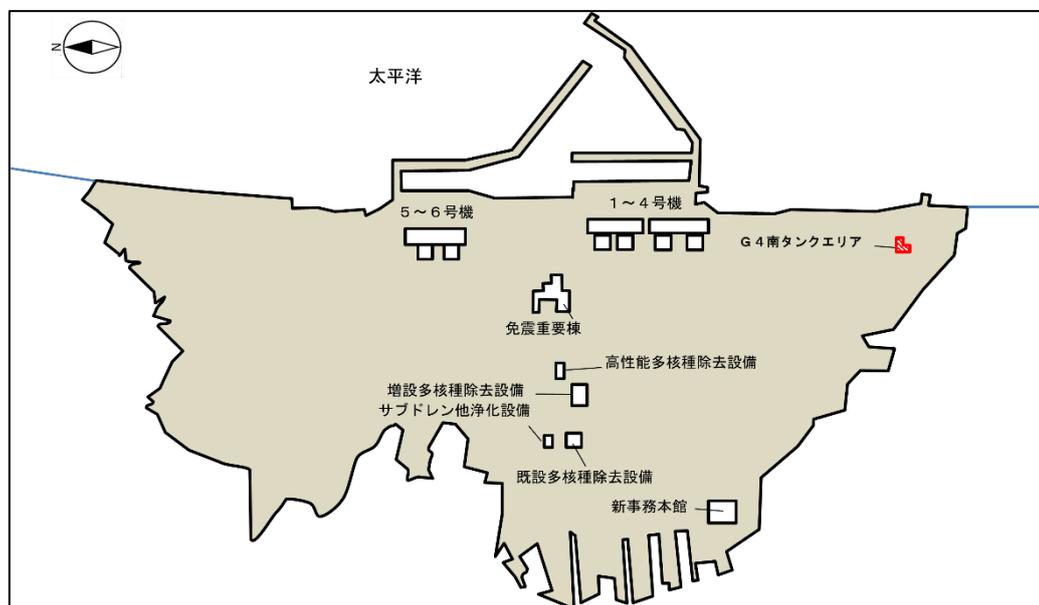
- ・作業員がタンク内部に入り、タンク内面点検及び内面補修に向けた準備作業を実施していた。（写真1）
- ・タンクの入口には汚染拡大防止のためのハウスが設置されていた。タンク内の空気を排出するダクトが設置されていた。（写真2）
- ・タンクの入口には酸素濃度測定記録が掲示されており、酸欠防止対策が講じられていた。

(2) ALPS処理水の貯蔵状況

G4南タンクエリア（C群タンク）に貯蔵されているALPS処理水について、その状況を確認した。

- ・G4南タンクエリア内堰及び外堰内には、雨水が深さ約5 cm溜まっていた。（写真3）
- ・G4南タンクエリアには屋根が設置されており、屋根にたまった雨水は配管で外堰に放水されていた。（写真4）
- ・連結弁等の弁棒にはプラスチック製のカバーが設置され、「閉」の状態がわかるよう印がつけられていた。（写真5）

- ・確認した範囲では、タンク及び接続配管からの漏えい等の異常は確認されなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1①) G4南タンク外観



(写真1②) 点検作業の準備 (資材)



(写真1③) 廃棄物保管場所



(写真2) ハウスの設置状況



(写真3①) 内堰内に溜まった雨水



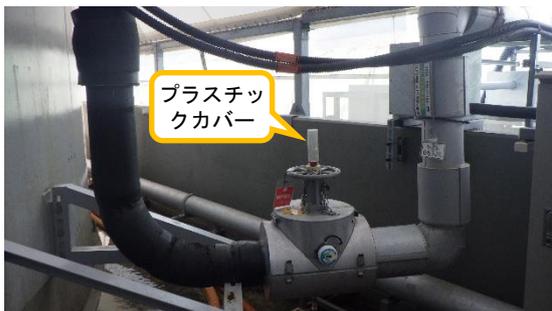
(写真3②) 外堰内に溜まった雨水



(写真4①) 屋根の雨水排水管



(写真4②) 外堰への排水管



(写真5①) 入口弁の状況



(写真5②) 連結弁の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。